



進路希望調査



「就職」か「進学」か

今年度も「進路希望調査」を全学年で実施しています。高校卒業後のことをなかなか決められずに悩んでいる人もいます。

「学費が高いから」「早く経済的に自立をしたいから」「もう勉強はたくさんだから」などの理由で「進学」から「就職」に変更した人もいるのではと思われます。

「進学」を選んだ人も、「学びたいことがある」「職業の選択肢が増える」「まだ社会に出る自信が持てない」など、理由は様々でしょうが、将来就きたい職業も考えて、自分に合った進学先を選びましょう。誰もがいずれ自分で働いて生きる「自立」のための職業選択を求められるからです。そして、できるだけ早く志望校を決め、多様な入試の中から自分に有利な入試方法（方式）を選び、準備を始めましょう。

4年生は多くの方がすでに進路目標を決め、その実現に向けて着々と準備を進めています。4月から皆勤を続けている人も増え、授業に取り組む様子などからも意識の高さを感じられます。進路先に提出する「調査書」には4年の1学期までの成績と出欠席が記載されるため、4年生の1学期は書類上で自分をアピールするための最後のチャンスです。希望の進路に進めるように最善をつくしましょう。

「就職」した後で「進学」する方法

○大学の社会人入試

高卒で就職してから大学に進学するには、高校生と同じ学力試験を受けて進学する方法もありますが、社会人経験者には社会経験を活かした受験方法もあります。主な試験内容は小論文と面接であることが多いです。一般的な受験資格はつぎのとおりです。

- ①高校を卒業している ②22歳以上 ③社会人経験が3年以上 のすべてを満たすこと

○大学院への入学

高卒であっても、22歳以上で「個別入試資格審査」に合格すれば受験できます。審査内容は大学ごとに異なりますが、例としては、次のようなものがあります。

- ①専修学校、各種学校課程の修了 ②社会での実務経験や取得した資格
③大学の履修生として修得した一定の単位 のいずれかにあてはまること

※実際の受験資格や審査方法、入試、いずれも大学によって異なります。ここに記載したのはあくまでも参考です。気になっている大学などがある人は、大学の募集要項で確認してください。

経済的理由などで就職を選んだ人も、「もう大卒にはなれない、取り返しがつかない」などということはないので安心してください。後々大学などに進学したくなくなったとしても、本気になれば手段はあることを知っておいてほしいと思います。その際、出願書類として高校の「卒業証明書」と「成績証明書」が必要になります。その場合は4年生の3学期末までの成績が記載されます。進路が決まった後も先々で後悔のないよう、高校生活を最後までしっかり送りましょう。